

第6回丹後管内二級河川流域治水協議会の開催結果

■開催日時：令和5年11月30日（木） 15：30～16：30

■開催方法：Web 会議<zoom>

■参加者：9名（別表参照）

結 果

- 宮川、男山川、三田川、真名井川、畑川、世屋川、波見川、犀川、朝妻川水系の流域治水プロジェクトを策定した。
- 策定済の大手川、福田川、川上谷川、野田川、竹野川、佐濃谷川、大雲川、神子川、大膳川、筒川、吉野川、宇川、新樋越川、木津川、栃谷川、久美谷川水系の流域治水プロジェクトのフォローアップを実施した。

主な発言内容

【開会挨拶（京都府建設交通部長）】

- ・「国土強靱化3か年緊急対策」や「5か年加速化対策」を活用し、流下能力の向上等のハード対策を実施してきた。その結果、今年8月の台風第7号において、被害が軽減されたところがある一方で、対策をすべきところは未だ多くある状況。
- ・「国土強靱化5か年加速化対策」の補正予算が4年目を迎え、本年度で83%が措置済となり、来年度及び再来年以降の予算を確保するために、台風第7号時の効果や引き続き整備が必要であるという声を上げていくことが重要。
- ・一方で、激甚化する災害の規模からすると、府管理河川の整備目標である概ね10年に1度の規模というのは小さく、ハード対策だけでは対応できないことを前提に、最低限逃げ遅れることがないようにタイムラインの作成等しっかり取り組んでいくことが重要である。
- ・余裕を持った避難行動のためには、できるだけ水を溜めて流出量のピークをずらす対策等が重要になってくるが、これには構成員の皆様のご協力が欠かせないところであり、流域治水プロジェクトを通して、それぞれの取り組み内容を共有し、それぞれの責務を果たす計画を立てていくために役立つことを願う。

【意見交換】

〈宮津市〉

- ・管内すべての水系でプロジェクトの策定が完了したこと、また、管内の河川改修、真名井川の砂防事業、治山事業などハード対策を着実に進めていただいていることに対し、関係機関のご尽力に感謝申し上げる。
- ・ハード、ソフト両面の対策を総合的に実施することにより、市民の安心安全に大いに寄与できていると考えている。
- ・今後も、各機関の各種取り組みについて参考にしながら、より一層の防災減災対策に取り組んで参りたい。

〈京丹後市〉

- ・当市では、昨年度ですべての水系で流域治水プロジェクトの策定が完了し、今後は取り組みの進捗を確認し、しっかりとフォローアップしながら、本プロジェクトを実施して参りたい。
- ・近年の集中豪雨に対して、ハード対策のみでは対応が困難なため、ソフト対策が重要になっている。
- ・一方で、依然としてハード整備の役割は非常に大きく、当市としては、流域が一番大きい竹野川の河川改修を引き続き優先的にお願いしたい。
- ・今後は、令和3年度に作成したハザードマップ、タイムラインを活用し、市民の更なる防災意識の向上及び防災対策に努め、安心安全なまちづくりに取り組んでいくので、京都府及び各関係機関にはご指導等お願いしたい。

〈伊根町〉

- ・新規プロジェクトの中で、当町にある河川は一つ（朝妻川水系）であるが、当町の生命線とも言える国道178号の経路を考えると、どの河川も重要である。
- ・近年は、今まで体験したことがないような豪雨がいつどこで降ってもおかしくない状況になってきており、予想を超える事態になっても、被害を最小限にとどめるため、今後はさらに防災意識の向上に努めていかなければならないと考えているので、今後ともご尽力賜りますようお願いしたい。

〈与謝野町〉

- ・今年8月の台風第7号において、当町では、高潮等により住宅など36棟が床下浸水する被害を受けた。
- ・今後ますます激甚化、頻発化する災害に対して、自分事として捉えることが大切であると再認識しているところ。
- ・被害が少しでも軽減できるように、ハード、ソフト対策が一体となった防災対策に取り組んで参りたいと考えているため、引き続きご指導、ご支援をお願いしたい。

〈京都府丹後広域振興局 地域連携・振興部〉

- ・危険地域でのタイムラインの作成及び見直し支援のため、防災士等専門家の派遣を継続実施している。
- ・新聞報道でも出たとおり、京都府は人口当たりの防災士の数が一番少なく、京都府では今年から令和8年にかけて、800人の防災士を養成しようとしているところ。
- ・今年度は、丹後地域において13人程の割り当てがあったが、実際の受講者は7人とどまっている。
- ・丹後地域において、今後約60人を養成し、管内の防災士数は合わせて約200人になる予定であるが、丹後管内の危険地区は約340箇所あり、各危険地区に防災士がいて、自助共助の中心となって活躍いただくことが理想。
- ・各市町におかれては、受講者の確保に苦勞していると伺っている。府も一緒になり取り組んでいきたいと考えているため、引き続きご協力をお願いしたい。

〈京都府丹後広域振興局 農林商工部〉

- ・二級河川の流域治水プロジェクトという形で、ソフトとハードの両面で取り組みが行われていることは非常に評価できると思う。
- ・近年の災害の起こり方としては、短時間に局所で大雨が降ることによるものとなっており、今後の対応としては、予測をどのように見極めていくかということが大切になってくると思う。

〈京都府丹後広域振興局 建設部〉

- ・河川整備等のハード整備について、まだまだ対策すべきところはたくさんあるので、着実に進めていくとともに、整備済みの河川についても、浚渫等のメンテナンスをしっかりと行っていきたい。
- ・治水対策を流域全体で考えていく必要があり、森林整備では、間伐により下草が生えて土砂流出を減ら

したり、治山や砂防堰堤を整備することにより侵食を少しでも減らすことで、河川への土砂流出が抑制されるということになり、引き続き、皆様と連携して進めて参りたい。

- ・市町においては、しっかり対策に取り組んでいただいております、京都府が公表した浸水想定区域図を基にハザードマップを更新され、また、内容についても、タイムラインを記入できるような仕様にする等色々な工夫をしていただいております、感謝申し上げます。
- ・幸いにも、令和に入って大きな災害は起こっていないが、引き続き、気を引き締めてハード、ソフト両輪で進めて参りたい。

(国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局)

- ・当局では、流木災害防止の観点から、間伐を行う際に販売可能なものについては積極的に搬出して販売することで、有効利用を図っている。
- ・森林の持つ公益的機能をより一層発揮させるため、新植する際は、針広混交林造成や複数の樹冠層を有する育成複層林等の造成を進める等、流域治水に貢献できるよう、引き続き、中長期にわたり計画的な森林整備を進めて参りたい。

(京都府建設交通部長)

- ・ハード整備は非常に効果がある一方で、予算、資源の制約等があり、また整備が完了したところで、概ね10年に1度の規模であるため、逃げ遅れゼロを目指すソフト対策も一生懸命備えておかなければならない。
- ・避難行動について予め決めておくタイムラインの作成は、非常に重要であり、そこに資するように、府建設交通部でも、水位予測システムを試験運用しながら精度確認をしている。予測精度も踏まえて、タイムラインを設定していただく必要があるということが分かったところである。
- ・各機関の取り組みは、洪水が来るピークをずらす効果が間違いなくあるため、着実に進めていただきたい。
- ・財政制度審議会では、浸水想定区域内の人口が増えており、そうでないところで人口が減っていることがデータで示されている。
- ・我々の取り組みで洪水被害が防げないとなれば、洪水の危険があるところには人を住まわせないようにする等、住まい方を工夫していくことも必要である。

(別表)

機関名	職名	氏名	備考
宮津市	市長	城崎 雅文	(代理)副市長：今井 真二
京丹後市	市長	中山 泰	(代理)管理課国府事業推進室長 ：大久保 貴教
伊根町	町長	吉本 秀樹	(代理)副町長：上山 富夫
与謝野町	町長	山添 藤真	(代理)副町長：井上 雅之
京都府 建設交通部	部長	濱田 禎	協議会会長
京都府 丹後広域振興局 地域連携・振興部	部長	村上 章	
京都府 丹後広域振興局 農林商工部	部長	椋平 智博	
京都府 丹後広域振興局 建設部	部長	市原 隆	
京都府 港湾局	局長	苔口 聖史	(欠席)
国立研究開発法人 森林研究・整備機構 森林整備センター 近畿北陸整備局	局長	松林 順一	

